

# オールスター・ジャム・セッション

9月2日大阪フェスティバルホール

9月3日東京武道館

9月5日 横浜スタジアム

1. クライシス 8 : 4 7  
フレディ・ハバート(トランペット)  
ローランド・ハナ (ピアノ)  
レイ・ブラウン (ベース)  
アート・ブレイキー (ドラムス)  
リズム・セクションに先導されて、ハバート独特のトリルを使ったソロ、曲は彼のオリジナル。奔放で自在なアドリブは彼の身上、ハナとブレイキーのソロも中間部にスポットされ迫力満点のサウンドが会場に響く。
2. デューク・エリントン・メドレー 4 : 0 3  
レイ・ブラウン (無伴奏ベース・ソロ)  
A列車で行こう」「キャラバン」「昔はよかったね」の演奏曲目が変わる度に盛大な拍手。またスインギーなリズムや太い音色など、多くのベーシストの尊敬を集める巨人である。
3. チュニジアの夜 8 : 2 0  
フレディ・ハバート(トランペット)  
ローランド・ハナ (ピアノ)  
レイ・ブラウン (ベース)  
アート・ブレイキー (ドラムス)

ジャズメッセンジャーの看板曲だけにドラムイントロが始まると早くも客席が騒然。

ハバートは1963年メッセンジャーズの一員として初来日、Cフラー、Wショーターと三管による演奏を披露してくれた。以降その明快なサウンドにファン層も広がりジャズブームが到来。

ホーンはテーマを吹くだけ、ドラム・ソロが終わると2本のスティックを空中に放り投げて最敬礼するブレイキーに万雷の拍手が起こる。

4. バグス・グループ 6 : 2 4  
当夜アンコールを強要する拍手を破って、作曲者ジャクソンによるテーマ提示がはじまると場内も大喜び。先ず、トロンボーンのブルック・マイヤーが加わる。以下ソロは、マリガン→ゲッツ→マイヤー→ハバート→ハナと続いてラストテーマに入る。因みにバグスとはジャクソンのあだ名で目の下が袋 (Bag) の様に膨らんでいたとのことだったらしい。

油井正一氏の解説も一部参考

## ライオネル ハンプトン オールスター BIG BAND

1. エア・メール・スペシャル 3 : 5 7  
1939年ハンプトンが在籍中のグッドマン楽団の十八番としておなじみ。作曲は天才ギタリストのCクリスチャン。演奏はパンチの利いたアンサンブルの1コーラス。ハンプトンはスインギーで華麗なアドリブを展開する。我が国でも人気の曲で多く楽団で演奏され録音も数多い。
2. サクラ' 8 1 8 : 4 4  
Sサックスのマルタの編曲でエキゾチックな見事な演奏。日本の歌詞とスキヤットを変えてユーモラスに歌い、ヴァイブがリードしクライマックスをつくり原旋律を浮かび上がらせる、素晴らしいショーマンでもあるのだ。
3. 言い出しかねて 5 : 1 2  
1936年名トランペッターのBバリガンが吹き込んで有名。ここではPカンドリのペットがバリガンの有名なアドリブを下敷きにしてスケール大きく快演。

4. ローズ・ルーム 4 : 1 5  
グッドマンごひいきのナンバー、ここではゲストのWハーマンが登場、グッドマンとは一味も二味もちがったブルージーな渋いソロを披露してくれている。
5. スター・ダスト 5 : 5 4  
Hマイケルの傑作曲でロマンチックな名曲で多くの楽団や歌手の吹き込みの名演もあるが、1947年のハンプト・オールスターズ DECCA ライブ録音が決定版。ここではハンプトンの十八番のバラード・プレイを十分堪能できた。ハンプトンは73歳だったが、前3回の来日公演を上廻る好評に感激し、再来を約束して帰国。

野口久光氏の解説も一部参考